

たきかわ「^わ環のまち」物語

年次報告書(案)

(平成 19 年度版)

滝 川 市

◇たきかわ「^わ環のまち」物語 年次報告書とは

滝川市では「たきかわ「環のまち」物語～滝川市環境基本計画・地域行動計画～」(以下、「環境基本計画」という。)という環境に関する計画を平成 18 年 3 月に策定しました。環境基本計画では、滝川市では環境においてどのような取組が行われているか、また実際にはどこまで成果が上がっているのかなどを、毎年、検証することにも取り決めています。この報告書はその一環として前年度の状況などをとりまとめて、皆さんにご報告するためのものです。

☆「たきかわ「環のまち」物語 ～滝川市環境基本計画・地域行動計画～」とは

ひとくちに環境といっても、様々な切り口がありますが、この計画では次の 4 つの視点(ここでは「物語」と呼んでいます)から目指すべき将来の姿を描いた上で、それぞれにおいて達成すべき数値目標などを設定しています。

1 資源の環(わ) 循環 物語

廃棄物の発生抑制やリサイクルを推進します。

2 創エネ・省エネ 物語

エネルギーの消費抑制、再生可能エネルギーの利活用を推進します。

3 農・山・川 物語

豊かな自然環境、農業にふれあい、育む活動を推進します。

4 人の環づくり 物語

環境づくりを担う人材育成とネットワークづくりを推進します。

計画では次のとおり具体的な数値目標を設定しています。

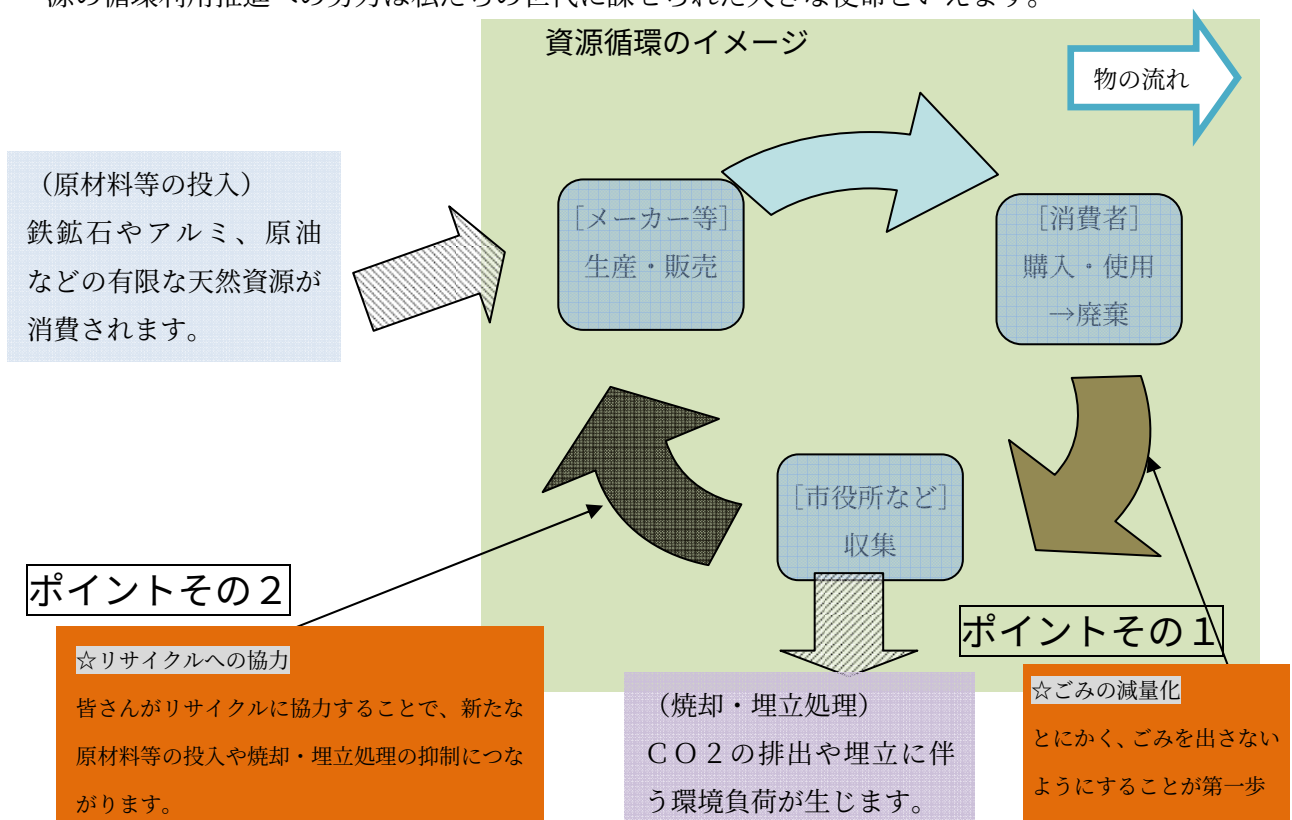
項目	H16 (参考)	H27 目標値	備考
1 人あたりのごみ排出量	935g	750g	1 日 1 人当たりの排出量
リサイクル率	21.7%	30.0%	
バイオマス資源の利用率	—	—	バイオマスタウン構想で別途規定。
省エネモニターのCO ₂ 削減量	—	前年比平均 6%減	
農業体験年間参加者数	1,193 人	1,500 人	年当たり
石狩川ルネサンスの森市民植樹祭植樹本数	—	7,700 本	H18～27 の累計
環境学習リーダーの人数	—	100 人	H18～27 の累計
環境市民大会の参加者数	—	100 人	1 開催につき

(1) 資源の環（わ） 循環 物語

1 社会的状況等について

私たちが最も身近に環境問題への関わりが感じられるのが、ごみやリサイクルの問題ではないでしょうか。「こうすべき」という方向性がある程度、理解されてきているなかで、各地でレジ袋削減など市民生活のなかでの身近なエコ実践を促す動きも活発化してきています。

最近では企業や自治体等によって、使用済みの食用油や携帯電話、プリンタ用インクカートリッジから入れ歯といった物までが資源として回収されるようになりました。一方で再生紙の古紙配合率の偽装問題など消費者の信頼を揺るがすような事件も明るみになりましたが、限りある資源の循環利用推進への努力は私たちの世代に課せられた大きな使命といえます。



全国に広がるノーレジ袋（レジ袋削減）の動き

1年間に消費・廃棄されるレジ袋は約300億枚（※環境省ホームページより）ともいわれており、そのレジ袋を製造するのに約4.8億リットルの石油が必要だという推計もあります（※ふろしき研究会資料より）。そこで、東京都杉並区や名古屋市などをはじめとして全国各地でレジ袋削減に向けた行政側の取組とともに、小売店の側もレジ袋辞退者に対して一定の特典を与えるなど、それぞれの立場から使い捨てられるレジ袋への過度な依存の見直しを図る動きがスタートしています。



2 平成 19 年度における数値目標の達成状況について

一人あたりのゴミ排出量（資源回収等除く）

目標値（平成 27 年度時点） 750 g/人・日

実績値（平成 19 年度） 889 g/人・日

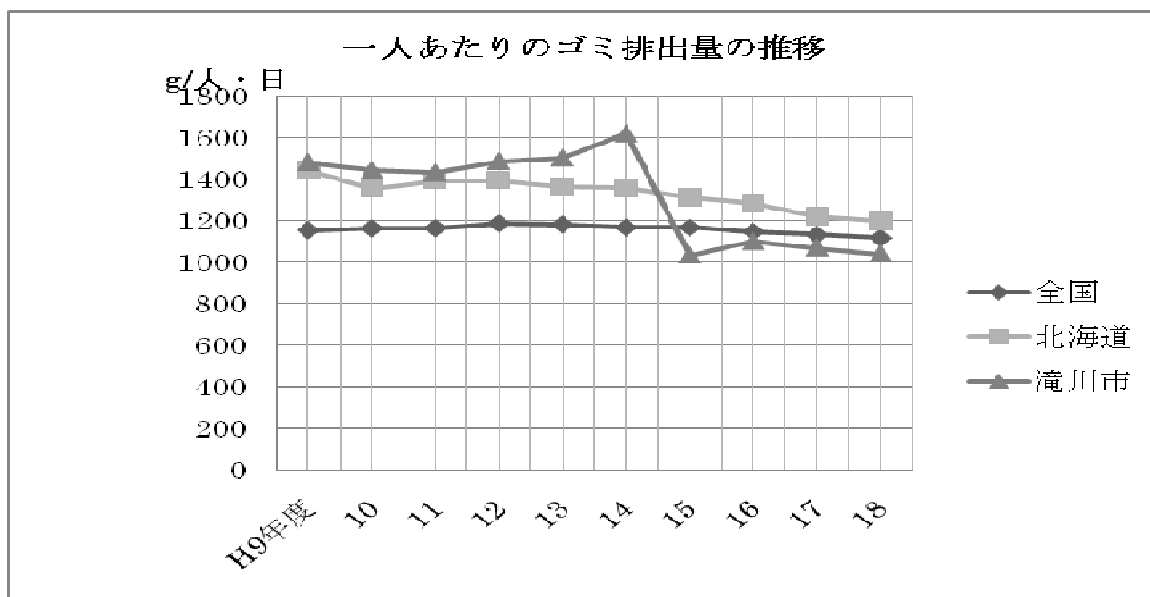
リサイクル率（廃棄物のなかから金属などの資源として回収できた率）

目標値（平成 27 年度時点） 30. 0%

実績値（平成 19 年度） 20. 4%

（参考）滝川市の一般廃棄物回収処理内訳について

区 分		単位	18 年度	19 年度
収集人口 ①		人	44,831	44,394
収集世帯		世帯	20,968	21,047
家庭系＋事業系	生ごみ	t	4,187	4,050
	燃やせるごみ	t	8,058	7,964
	燃やせないごみ	t	868	865
	粗大ごみ	t	1,029	1,096
	資源ごみ	t	524	463
	計 ②	t	14,666	14,438
資源化量 （資源回収以外）	燃やせないごみ・粗大ごみより回収	t	429	450
	生ごみより	t	167	162
	資源ごみより回収	t	509	450
	計 ③	t	1,105	1,062
資 源 回 収	拠点回収	t	41	43
	集団資源回収	t	2,329	2,317
	資源回収の合計 ④	t	2,370	2,360
合計 ⑤ （②＋④）		t	17,036	16,798
日排出量/人（資源除く） ②/①/年間日数		kg	0.896	0.889
日排出量/人（資源含む） ⑤/①/年間日数		kg	1.041	1.034
（参考）全国(H18)		kg	1.116	—
（参考）北海道(H18)		kg	1.199	—
リサイクル率 （③＋④）／⑤		%	20.4	20.4
（参考）全国(H18)		%	18.6	—
（参考）北海道(H18)		%	19.6	—



3 平成 19 年度の主な取組等について

(1) 集団資源回収事業

町内会をはじめとした各種団体において、資源の回収を奨励し、回収された資源の量に応じて、補助金を交付するものです。

実施団体数 173 団体

補助金交付額 463 万 3 千円

それぞれの回収量については次のとおりです。

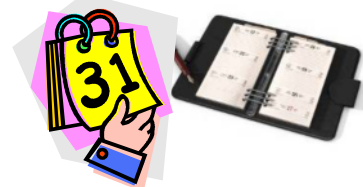
単位：t

		18 年度	19 年度
区分	紙パック	7	8
	紙 類	1,868	1,843
	びん類	199	208
	金属類 (スチール缶、アルミ缶、その他金属)	147	149
	ペットボトル	107	108
	その他	1	1
	計	2,329	2,317

(2) カレンダーリサイクル事業

年末に個人や事業所等で受け取るカレンダーのうち、自らは使用する見込のないものを提供していただき、これらを「駅前ひろばく・る・る」(スマイルビル地下1階)において年末年始にかけて展示し、希望者にはその場にて無料でお渡ししました。(1人3点まで)

配布数約 1,000 点



(3) 滝川市フリーマーケット情報交流事業

滝川市内で開催されるフリーマーケットの情報を市が滝川市公式ホームページや電子メールを通じてPRし、フリマの活性化を支援する取組です。電子メールでの情報は市内外を問わず予めアドレスを登録していただいた方に対して随時、送信します。

- ・ 発信したフリーマーケット開催情報の件数 12 件
- ・ メールアドレス登録者 59 名



(4) 滝川ふろしきルネッサンスセミナーの開催

レジ袋の出現・普及によって、スーパーやコンビニなどへの買い物は手ぶらで出かけるという習慣が定着していますが、このことによって消費される資源、さらには廃棄に係るコストや環境負荷までを考えると、世界で温暖化や資源枯渇等の問題が提起されているなかで、見直すべき検討対象の一つとしてこの現代的慣習に着目することは、多くの市民が身近な生活から環境問題へのアプローチを図るという点で、大きな意義があるといえます。

当セミナーでは京都から講師をお招きして、レジ袋の利用状況等やこのことによる資源や環境への影響等について学ぶとともに、レジ袋や紙バッグなどの使い捨て包装への依存を軽減するためのひとつの選択肢として、日本独自の文化として受け継がれてきたふろしきの良さや奥深さを見直すため、ふろしきの基本的な使い方から、リュックサックとしての使い方やお部屋のインテリアなど、ちょっと変わった使い方までを楽しく教えていただきました。

- ・ 開催日 平成 19 年 11 月 23 日
- ・ 会場 滝川ホテル三浦華園
- ・ 講師 ふろしき研究会代表 森田 知都子さん
- ・ 参加者 150 名



(2) 創エネ・省エネ 物語

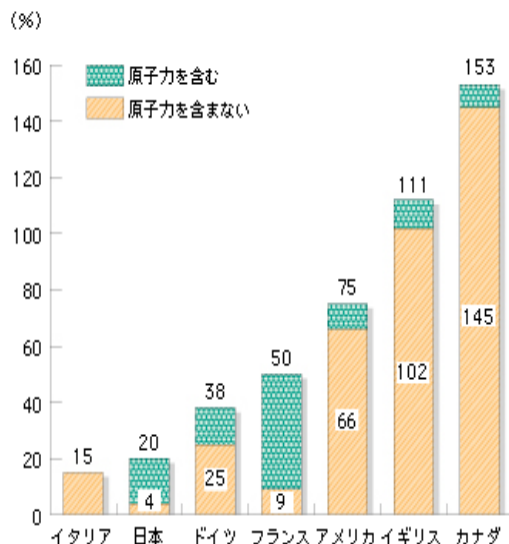
1 社会的状況等について

世界的な原油価格の高騰は私たちの生活にも様々な影響を及ぼすこととなり、ガソリンをはじめ自動車燃料はもとより様々な製品やサービスの値上げにもつながりました。特に寒さが厳しい北海道の冬には灯油は生活必需品であり、政府からは灯油購入に対する公的支援の方針なども打ち出されました。

一方、バイオ燃料の生産が世界各地で盛んになり、特にアメリカを中心にバイオエタノール¹の生産が拡大し、これが食糧及び飼料用のトウモロコシなど軒並み食糧価格の高騰を招く要因になったという見方もあり、バイオ燃料の性急な生産拡大に対する懸念も生まれてきています。

国内においてもバイオエタノールやBDF（バイオディーゼル燃料）²の大規模プロジェクトが各地で進められていますが、こういった状況を受け、廃木材や稲わらといった食糧と競合しない原料からの燃料製造に関する研究開発も進められています。

しかし、世界全体におけるエネルギー消費が今後も拡大傾向が予想されるなかで、依然としてエネルギー自給率が4%程度（原子力を除く）の日本にとって、ますますエネルギー確保がシビアな状況になることが予想されることから、温暖化対策と併せて、バイオ燃料や太陽光、風力などの再生可能エネルギーの導入に関心を向けるとともに、メーカーやユーザーが一体となった省エネや効率化利用への意識を高めることも重要な課題となってくると考えられます。



資料：IEA「Energy Balances of OECD Countries 2000-2001」

(注) 電力はその輸出入量を一次エネルギーとして計上している。

日本のエネルギー自給率

現在の日本のエネルギー自給率は、左グラフのとおり、主要先進国のなかでも、きわめて低い状況といえます。かつては57%（1960年）あった自給率が、石炭から石油への転換が進み、海外からの輸入が増えた結果、大きく下落することとなりました。

なお、原子力を含まない自給率4%の内訳は、主に水力や地熱、太陽光、天然ガス、廃棄物等によるものということです。

¹ ガソリンの代替燃料として利用することができるバイオ（動植物由来の）燃料で、主にトウモロコシやサトウキビなどを原料に実用化が進められています。

² 軽油代替燃料として利用することができ、主に植物油を原料に精製されます。国内では廃食油が中心ですが、ドイツなど欧州では主に新油を原料に大規模な利用が進められています。

2 平成 19 年度における数値目標の達成状況について

省エネモニターのCO₂削減量

目標値（平成 27 年度時点） 前年比で平均 6%削減

実績値（平成 19 年度） 4.9%増（対象モニター19 世帯）※

※電力だけを対象に実施した省エネモニターの結果をもとに算出しています。

3 平成 19 年度の主な取組等について

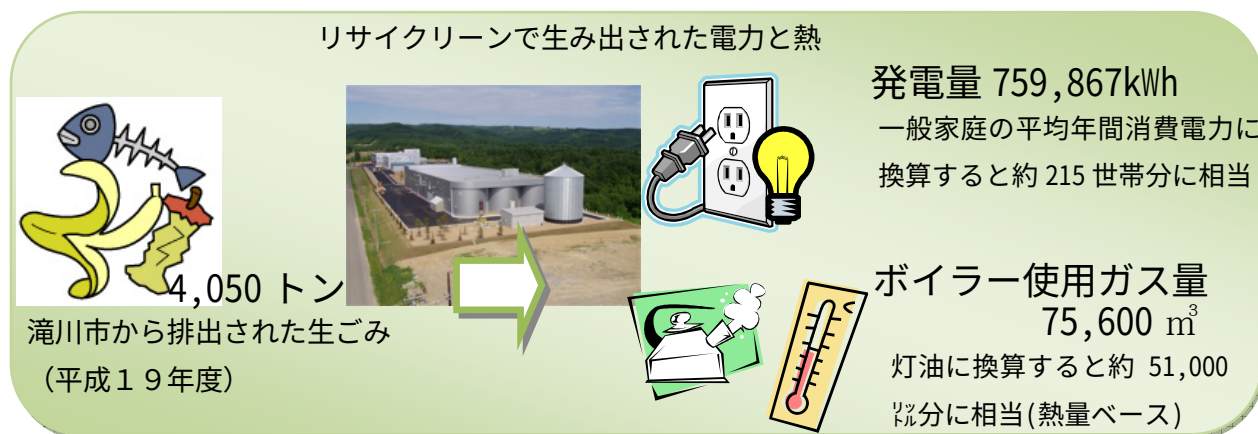
(1) バイオマス³タウン構想の更新

滝川市バイオマスタウン構想は平成 18 年度に策定されましたが、新たに民間事業者による SPF 豚⁴生産事業が拡張されるのに伴い、ここから発生する糞を堆肥化し地域の農家に配布・還元するという取組を本構想に位置づけるため、9 月に内容を更新・公表しました。

(2) バイオマスのエネルギー利用

① 生ごみのエネルギー利用

平成 15 年度から稼働している中空知衛生施設組合リサイクリン（滝川市のほか赤平市、芦別市、雨竜町、新十津川町と共同で運営）では、私たちの生活から発生する生ごみからメタンガスというエネルギーを生み出しています。メタンガスは電力や熱に変換され施設の運営に活用されています。



※それぞれ、施設全体の発電量及びボイラー使用ガス量に滝川市の生ごみ排出割合(55.6%)を乗じた値です。

② 下水道汚泥のエネルギー利用

滝川市の下水道は石狩川流域下水道(北海道及び 6 市 4 町により運営)に接続されており、奈井江管理センターという下水道処理施設に送られ浄化されます。そこでは、水がきれいにさ

³ 石油や石炭といった化石燃料を除く動植物由来の有機性資源をいいます。最近、話題となっているバイオ燃料のほか、廃木材や畜産ふん尿、生ごみといったものを資源やエネルギーとして活用される事例が各地で展開されています。

⁴ 特定の病原体を持たない(=Specific Pathogen Free)よう高度な管理技術の下で生産される豚で、良好な健康状態で育てられ、従来の豚肉に比べて優れた肉質を有すると注目が高まっています。

れる過程で有機物からメタンガスを取り出し、得られたガスを熱に変換し利用しています。

	施設全体	滝川市分
I 汚泥処理量（トン）	5,006	2,067
II 消化ガス発生量（m ³ ）	1,188,464	490,836
III 消化ガス使用量（m ³ ） →ボイラー燃料として熱利用	555,493	229,419
IV IIIの使用量を灯油に換算した場合の リッター数(熱量ベース)	380,214	157,028

※ II 及び III の滝川市分は汚泥処理量の割合から案分した値です。

③植物油の軽油代替燃料利用

これまでは廃棄物として処理されていた天ぷら油（植物油）を公用車両等の自動車燃料として活用するため、回収体制の構築及び植物油燃料化システムの導入を行い、平成 19 年 12 月から稼働を開始しました。

- ・回収ボックス設置箇所数 24 カ所
(うち、民間事業所の協力による設置箇所 8 カ所)
- ・対象車輛

ごみ収集車	4 台
公用中型バス	1 台
公用パトロール車輛	1 台
- ・天ぷら油消費量 約 4,800ℓ

※4,800ℓの軽油を燃焼した場合に発生する二酸化炭素（CO₂）の量

$$4,800\ell \times 2.62\text{kg}/\ell = 12,576\text{kg} \quad 12.5\text{t}$$

植物油（バイオマス）を燃料とした場合に発生する二酸化炭素はカーボンフリー⁵なため、排出量がゼロと見なされることから、この取組によって 12.5 トンの削減効果があったということになります。

その一方で、自動車燃料として利用するための油の選別や質の向上など、今後の安定的稼働に向けた対策についても検討すべき課題が浮かび上がりました。



④ナタネ油の BDF 化利用

滝川市には日本一の作付面積を誇る広大な菜の花畑があり、そこから栽培されるナタネは安全・安心な質の高い食用油の原料として供給されていますが、一方で規格外品といわれる商品として出荷されないナタネの一部を原料にして、搾油後 BDF として約 200 ℓを精製し、軽油と混合の上、公用車両の燃料として実証利用を行いました。



⁵ 植物はその育成中に光合成の働きで大気中のカーボン（炭素）を吸収・固定することから、植物由来の燃料を燃焼した場合に放出される炭酸ガスはもともと大気中に存在していたものを元に戻しただけ、すなわち総量としては増減していないという理論から、この場合の炭酸ガスの排出量はゼロ（フリー）と見なされます。

(3)新エネルギー教室の開催

資源エネルギー庁及び経済産業省北海道経済産業局と共催で、事前に応募のあった東小学校 6 年生 57 名を対象に「新エネルギー教室」を開催しました。

風力や太陽光、バイオマスなどといった新エネルギーの基本的知識を学ぶとともに、児童たちが実際に風力発電のキットを使い、うちわであおいだ風で発電し、模型自動車を走らせてみるなどの実験も行いました。

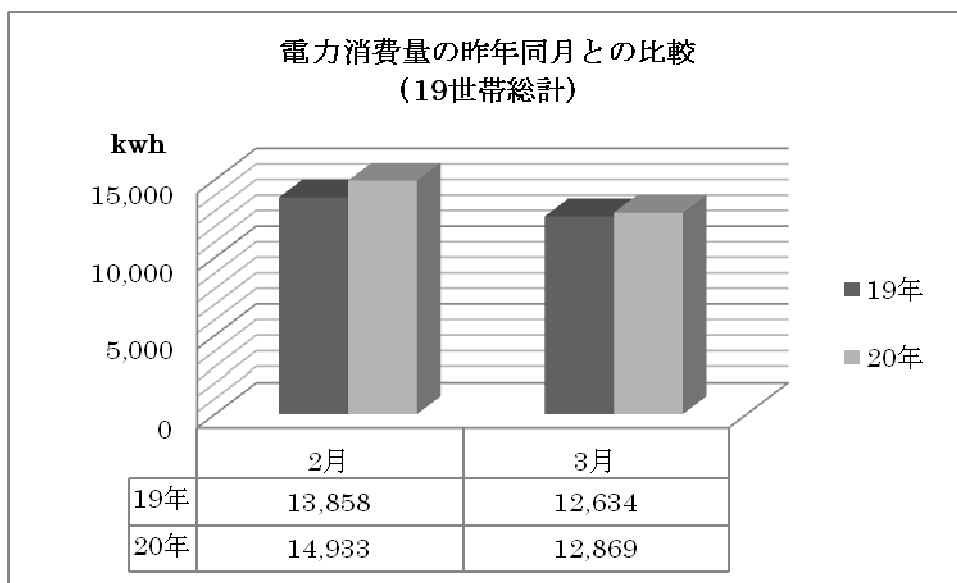


(4)省エネモニターの実施

市民の誰もが気軽に省エネに挑戦し、その結果を簡単に検証できるよう、19 年度から電力だけを対象とした省エネモニターを開始しました。

■モニター参加世帯数：19 世帯

■モニター対象期間：平成 20 年 2 月及び 3 月検針分



- 電力消費が前年同月より減少したモニター世帯（19 世帯中）10 世帯
- 最高削減率-23.75%
- 使用量が削減した世帯の平均削減率-10.6%
- 使用量が増加した世帯の平均増加率+14.5%
- 全世帯総増減率+4.9%

なお、本モニターにご協力いただいた 19 世帯全体では、昨年同期と比較して 2～3 月で 1,310kWh の電力消費量が増加し、この分の発電に際して排出された CO₂ が約 627kg と推計⁶されます。

⁶ 「平成 18 年度の電気事業者別排出係数」（環境省）から、北海道電力（株）の排出係数 0.000479t-CO₂/kWh を用いて推計しています。

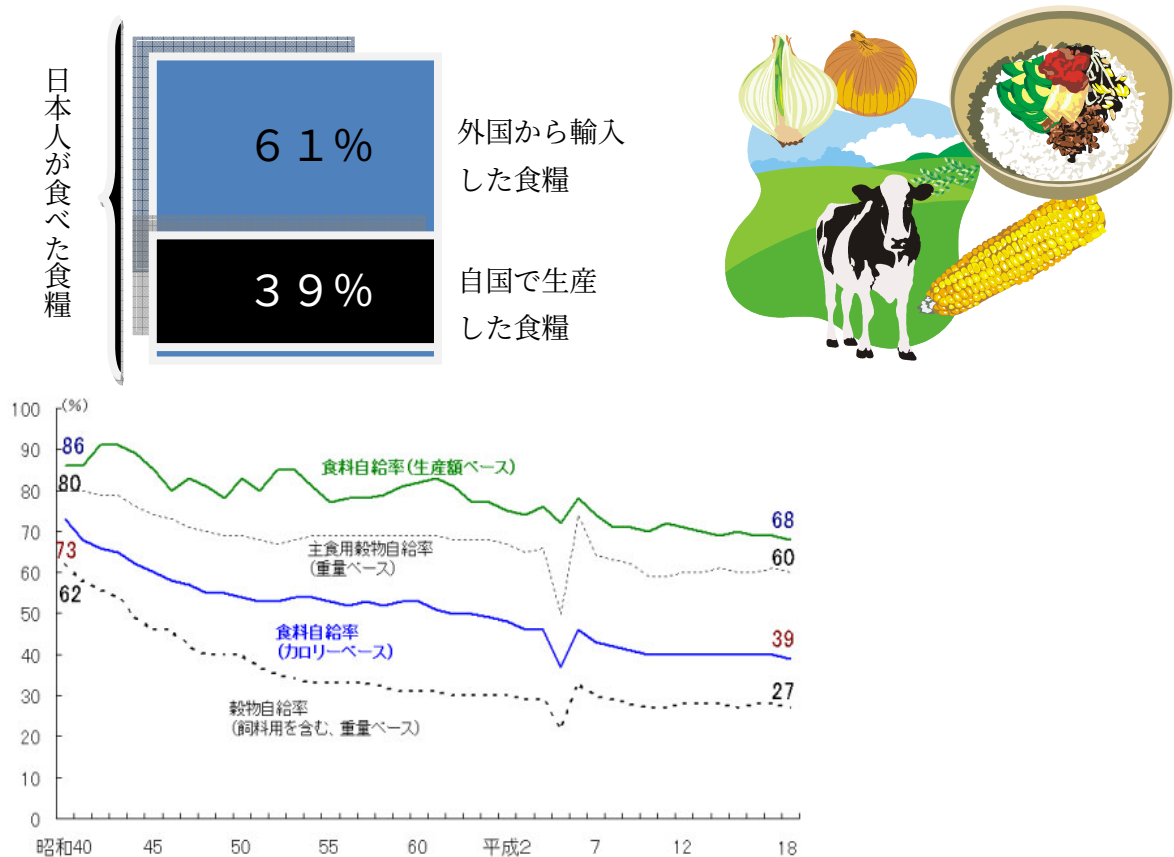
(3) 農・山・川 (ノー・ザン・リバー) 物語

1 社会的状況等について

農林水産省が日本の食糧自給率（平成 18 年度、カロリーベース⁷）が 40%を割り込み 39%と過去最低を更新したことを発表しました。その一方で中国からの野菜や餃子などを巡る問題が浮上し、どちらかといえば食品の安全に対してほとんど疑いを持ってこなかったともいえる日本人が、国内での数々の食品偽装問題の発覚とも併せて、初めて自分たちの安全な食品の確保に対して正面から向き合うことになったといえます。

都道府県別にみた食糧自給率では北海道は近年 190%から 200%前後で推移していますが、北海道は日本の食糧供給基地として今こそその真価を発揮する時機であり、豊かな自然環境はこの安全な食糧生産を支えるもっとも重要な礎として、私たちのかけがえない資産として大切に保全していく必要があります。

また、今後のバイオマス利用技術の進展によって、食糧供給の確保との調和を前提としたなかで、エネルギー自給率の向上においても農地や森林の果たす役割が大きくなることが期待され、特に森林は炭酸ガスの吸収源としての役割も期待されることから、農林業の活性化そして自然環境の保全は、今後、地球環境問題においてもいっそう大きな意味を有すると考えられます。



我が国の食糧自給率の推移（出典：農林水産省）

⁷ カロリー（熱量）を基準に自国で食べた食糧を自国の生産で賄うことのできた割合を算出したものです。そのほかに生産額ベースや重量ベースなどでの算出方法があります。

2 平成 19 年度における数値目標の達成状況について

農業体験（グリーンツーリズムを含む）年間参加者数

目標値（平成 27 年度時点） 1,500 人/年

実績値（平成 19 年度） 1,274 人/年※

※一部データ提供協力：中野ふぁーむ様、中村農園様

「石狩川ルネサンスの森市民植樹祭」植樹本数

目標値（平成 18～27 年度累計） 7,700 本

実績値（平成 19 年度末時点） 2,600 本（うち平成 19 年度 500 本）

3 平成 19 年度の主な取組等について

(1)地域農業の振興と住民との交流促進のための取組

①滝川産ナタネの生産拡大及び地元でのナタネ油生産

全国一の栽培面積にまで成長した滝川のナタネ生産は、地域の生産農家をはじめ関係者の努力により、平成 19 年度にはさらに播種面積を 230ha(平成 18 年度は約 120ha)にまで拡大しました。

これまでは生産したナタネのほとんどを原料として道外に出荷していましたが、搾油機を導入し、一部を地元でナタネ油として製品化し販売する取組を始めるとともに、滝川産ナタネ油を活用したドレッシングの販売など滝川産ナタネのブランド力の強化にも努めました。



②ふれ愛の里・秋の体験と収穫祭

開催日 平成 19 年 10 月 8 日

参加者数 約 2,000 人

内容 体験そば打ち・パンづくり

野菜収穫体験、フリーマーケット、玉ねぎ詰め放題コーナー

滝川産新米コーナー、新そば販売PR、

ハルユタカパン、ハルユタカラーメン、野菜の重さ当てクイズ、子ども餅つき

③親子農業体験塾

開催地：滝川市農業試験地

参加者：市内小中学校親子 14 組 40 名

第 1 回 田植え・じゃがいも・とうきび、カボチャ植え

第 2 回 田んぼの生き物調査、畑の草取り、トマト収穫体験

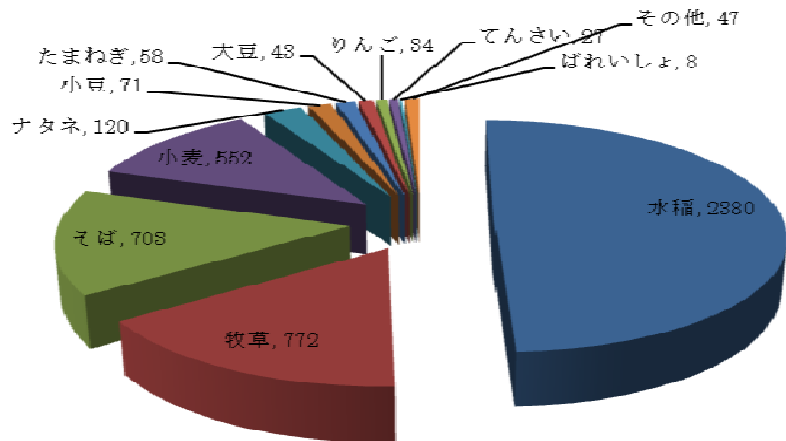
第 3 回 じゃがいも・とうきび・カボチャの収穫と試食

第 4 回 稲刈り、リンゴ収穫体験、農家納屋見学

第 5 回 脱穀・粳摺り・精米・試食



滝川ではどんな農作物が栽培されているかご存じですか？



単位：ヘクタール

H16 農林水産省「作物統計調査」などをもとに作成



(2)豊かな森づくりのための取組

①市民植樹祭

開催日 平成19年6月10日 丸加高原にて

参加者数 200人

②滝川遊学会事業

冬の森あそび 滝川スポーツセンターにて

参加者 20名

(3)川との共生に向けた取組

①まちづくり・川づくり協議会の活動

- ・石狩川クリーンアップ作戦（美化活動）・石狩川再生の森植樹祭

石狩川築堤の蛸の首樋門から北海道の森、ラウネ川とその周辺の清掃活動

参加者 120名 ゴミ回収 48kg、植樹 256本

- ・子どもの水辺再発見プロジェクト（滝川の自然を探ろう）

丸加高原とラウネ川 参加者 16名

- ・ミントチ祭り（交流連携事業）

西滝川・ふれ愛の里周辺 参加者 1,600名

- ・石狩川の川旅（川の自然を体感）

深川～江部乙 参加者 18名



②滝川遊学会事業

空知川水生生物調査

参加者 9 名

(4)自然とのふれあいへの取組

①「たきかわ環境フォーラム」(民間団体)による主な活動状況

■ECO フットパス⁸・マップ発行

■丸加高原渡り鳥バンディング調査⁹実施

■エコ・フットパス「東滝川を歩こう」開催

■エコカフェの開催(全5回)

「厳しい寒さに花ひらく」(越後事務局長)

「滝川環境マップよもやま話」(滝川高校：小野寺先生)

「パニウクルのエコ・ライフ/シスントーだより」(滝川市：河野社会教育課長)

「たきかわ天プロとは！」(滝川市：橋本くらし支援課主査)

「外来種アライグマ」(平田代表)

※テーマに沿って講師を中心に身近な環境問題について語り合う集いです。

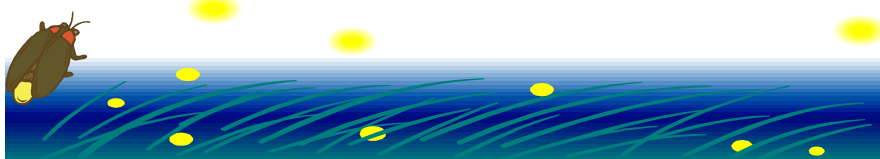
■東滝川地区水生生物調査実施(滝川遊学会と合同で開催)

■第4回森のまつり・ピクニックコンサート開催 など

※たきかわ環境フォーラム(代表：平田剛士氏)は2003年に設立され、「ふるさとの自然、再発見」を合い言葉に、独自に様々なユニークな活動を展開されていることから、ここでその活動実績の一部について取り上げさせていただきます。

ほー、ほー、ホータル、こーい！

丸加高原で羊の生産に取り組んでいる新山敏夫さんたちが属する「ひつじの会」(大川幸平会長)では、最近めったに見られなくなったホタルを丸加高原に呼び戻そうと、平成 17 年から周辺の水の浄化などに取り組んでいます。その成果もあって、ここ数年、7月ごろには多いときで一晩で数十匹のほたるの姿が確認されるまでになりました。ホタルたちのほのかな光とともに滝川の自然もみんなでいつまでも大切にしていきたいものです。



⁸ フットパス(foot path)は歩行者用の小道として、歩いてその地域の自然や街並みなどを楽しむことができるもので、イギリスが発祥といわれています。

⁹ 渡り鳥に識別用の標識を付けて、その移動範囲などを捕捉するための調査です。

②「そらぶちキッズキャンプ」実現化支援事業

市は、滝川の豊かな自然を生かし、小児がんや心臓病などの難病の子どもたちが安心して自然体験を楽しむことができる常設キャンプ場の実現を目指し活動している「そらぶちキッズキャンプを創る会」に対する支援を行っています。

■滝川市に「そらぶちキッズキャンプ開設支援推進本部」を設置

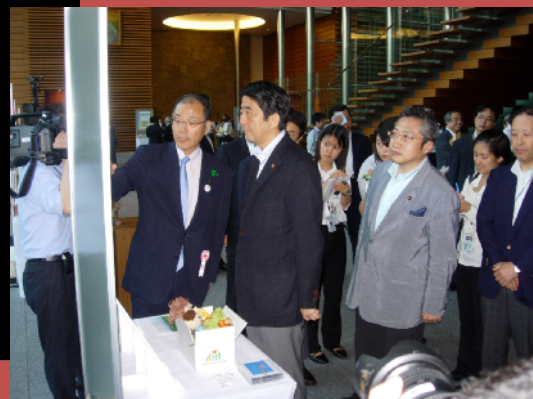
■サマープレキャンプ 2007 を実施

→全国から 19 名の子どもたちと 50 名のボランティアが参加



そらぶちキッズキャンプ 基本計画平面図

そらぶちキッズキャンプ実現への取組は、内閣府により全国 19 の地域活性化事例のひとつとして選ばれ、平成 19 年 6 月 20 日、田村市長が首相官邸において安倍内閣総理大臣（当時）にこの取組の内容について説明を行いました。



(4) 人の環 (わ) づくり 物語

1 社会的状況等について

ここ数年来の地球温暖化やエネルギー、リサイクルなどの問題に加えて、2008年7月に洞爺湖町でのサミット開催が決定されるなど、道内はもとより国全体における環境問題への関心は高まるばかりです。そういったなかで人々が環境問題を自分たちの身近な問題として学び、行動するための個人や団体などの活動なども活発化してきており、それらに対する国をはじめとした行政からの支援なども様々な形で展開されています。一方で、企業の側からも環境面への取組はCSR（Corporate Social Responsibility、企業の社会的責任）の一環として、むしろ前向きにこれを捉えるような傾向にあるといえます。

環境問題に対して個の力で立ち向かうことには限界があるなかで、こうした多様な主体の取組が相互に連携することで、より実効的な対策に結びつく可能性へとつながっていきます。社会全体として有効な情報を共有し、より実証的なデータを積み重ねながら、真に環境のための環境対策を打ち出していくために、そのための人材やネットワークづくりがこれからますます重要となります。



2 平成 19 年度における数値目標の達成状況について

環境学習リーダーの人数

目標値（平成 18 年度～27 年度累計） 100 人

実績値（平成 19 年度まで） 26 人（うち H19 年度 16 名）

環境市民大会の参加者数

目標値 100 人/回

実績値（平成 19 年度） 150 人/1 回

3 平成 19 年度の主な取組等について

(1)環境学習リーダーの養成

19 年度は短期集中型の講座として、基礎的知識の習得及び現場感覚の体得を目的に次のような内容で 2 日間の日程で開催しました。2 日間を通じて 25 名が熱心に受講されました。

①第 1 日目(平成 20 年 2 月 20 日)

基礎講座「温暖化？バイオ燃料？知っておきたい環境キーワード」

講師：滝川市市民生活部くらし支援課 橋本主査

特別講演「滝川市のごみ処理革命を振り返る」

講師：北海道環境生活部環境局循環型社会推進課

川嶋幸治 主幹

※川嶋主幹は平成 13～15 年度の 3 年間にわたり、北海道庁から滝川市に派遣され、滝川市の現在のごみ処理体制の構築に大きく貢献されました。



②第 2 日目（平成 20 年 2 月 29 日）

次の二工場を視察しました。

◎日本理化学工業株式会社（美唄市）

北海道ならではの廃棄物であるホタテ貝の貝殻を原料に、石灰石と混合しチョークを製造しています。製造技術の確立までへの苦労や福祉雇用などにも大きな貢献をされていることを学びました。



◎王子製紙株式会社苫小牧工場（苫小牧市）

環境との関わりがとても深い製紙業界のなかでも、同社は当時、リスクが高いといわれた海外での植林事業にいち早く着手されたことや、RPF といった廃棄物由来の燃料を利用するボイラの導入を進めるなど、環境に対する様々な取組を推進していることを学びました。



(2) 滝川ふろしきルネッサンスセミナーの開催（再掲）

同セミナーを環境市民大会として位置づけ、皆さんに平成 18 年度の年次報告書の概要をご報告申し上げるとともに、環境政策に対する御意見をいただく機会として会場でアンケートを実施いたしました。

・アンケート結果より（アンケート配布者 150 名 回答者数 98 名、回収率 65.3%）

（設問 1）

環境問題のことを意識して、普段のくらしのなかで何か実践していることはありますか？

		割合 (%)
①	ある	70.4
	特にない	20.4
②と回答した人に対して 今後、何かやってみたいと思いますか？		
①	‘ ぜひやってみたい	(1.0)
	② ‘ できることがあればやってみたい	(16.3)
	③ ‘ あまり興味がない	(3.1)
③無回答		9.2

この結果から、多くの人が環境問題を意識して何らかの行動をしているもしくは行動したいと考えていることがわかりました。

（設問 2）

滝川市の環境政策に対して自由に意見をお書き下さい。（記述式）

（回答から一部を抜粋）

- 市民への情報伝達がうまくいっていないのではないかな。
- プラスチック類のリサイクルをしてほしい。
- ごみ袋の値段が高いと思う。
- 地球温暖化についてもっと小中学生に教えていくべきだ。
- 市の職員がもっと行動で示すべきである。
- 環境家計簿の普及を進めるべきである。

など多数の意見が寄せられました。これらの意見については、今後の施策立案のための参考とさせていただきます。

環境都市宣言

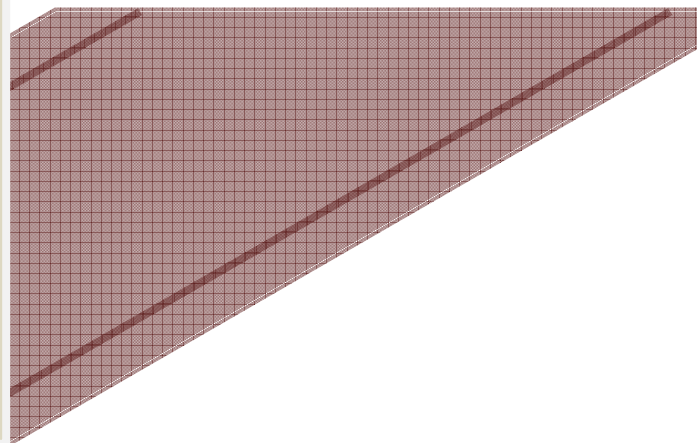
わたしたちのまち滝川は、石狩川と空知川に育まれた豊かな大地と自然の恵みを受けて、健康で文化的なまちとして発展してきました。

しかし、今、人々の営みは、豊かな自然や調和のとれた地球環境に大きな影響を与えています。

21世紀を迎え、わたしたちは、地域の優れた環境を再生し、美しい地球を未来に引き継ぐため、環境にやさしいまちづくりに努めることを誓います。

平成15年1月1日

滝 川 市



たきかわ「環のまち」物語

— 年次報告書 —

(平成 19 年度版)

〒073-8686

北海道滝川市大町 1 丁目 2 番 1 5 号

滝川市 市民生活部くらし支援課

電話 0125-23-1234 内線 1269

FAX 0125-24-0154

e-mail kurasi@city.takikawa.hokkaido.jp